預言者伝（スィーラ）

第 2 巻

アル＝アミーン

民の中の誠実な人

クルアーンと真正なハディースに基づく、アッラーの使徒ﷺの青壮年期



HJ CHE ALIM HJ CHE HARON
AK (KELANTAN)
quranscience.my

© 2026 年 / 1448 AH Hj Che Alim Hj Che Haron AK (Kelantan) • quranscience.my • @QuranScienceMY
この電子書籍はムスリムのための無料版です — 販売禁止。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

預言者伝（スィーラ）

第 2 巻

アル＝アミーン – 民の中の誠実な人

クルアーンと真正なハディースに基づく、アッラーの使徒ﷺの預言者となる前の青年期と壮年期

وَإِنَّكَ لَعَلَىٰ خُلُقٍ عَظِيمٍ

「本当にあなたは、崇高な徳性を備えている。」

筆章 68:4

HJ CHE ALIM HJ CHE HARON

quranscience.my | @QuranScienceMY

© 2026 年 / 1448 AH quranscience.my — 無料の電子書籍。販売禁止。

謝辞

幼い頃から使徒を守り、偉大な人格で飾られたアッラーに一切の称賛あれ。私たちの主、預言者ムハンマド ﷺ と、その家族と教友たちに祝福と平安あれ。

この電子書籍を、最愛の妻

ザハラ・モハマド・ラティフ；

愛する子どもたち、

ムハンマド・ハフィズ、ヌール・ハズワニ、アブドゥル・ハキム、ヌール・ヒダヤ、ノル・アキラ、ノル・アティカ；

そして義理の子どもたち、

ファジラ、マレク、ハニン、ファイリザル、フィルワンに捧げます。

『預言者伝（スィーラ）』の第 2 巻は、アッラーの使徒 ﷺ を青年期から最初の啓示の直前まで追います。それは、民がかれを「アル＝アミーン（誠実な人）」と呼んだ時代です。かれの人格が私たちの鏡となり、この知識が「イルムン・ユンタファウ・ビヒ」、すなわち役に立つ知識となりますように。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

この電子書籍の表紙について

この電子書籍の表紙には人物は描かれていません。描かれているのは**夕暮れのマッカの谷**です。乾いた**岩山**の連なり、遠くにそびえる**ジャバル・アン＝ヌール（光の山）**、そして北へ向かって砂漠の道をゆっくり進む**ラクダの隊商**。

その隊商は、アッラーの使徒 ﷺ のシャームへの交易の旅を思い起こさせ、ヒラーの洞窟があるジャバル・アン＝ヌールは、本書が語る預言者となる前の時代の終わりを示しています。

下部の紺色の帯は、**細い金色の線**に縁取られ、著者名が記される場所です。

目次

アル＝アミーン – 民の中の誠実な人 — はじめに

1. 民とともに生きる — ユーヌス章 10:16

2. アブー・ターリブの家での少年時代 — 年表；スィーラの注

3. 初めてのシャームへの旅 — 経路図；ブスラー

4. 修道士バヒーラの話：一つの評価 — 伝承の評価

5. フィジャールの戦い — スィーラの注

6. ヒルフ・アル＝フドゥール：虐げられた者を守る盟約 — スィーラの注

7. 働き、商う — 商人の徳目の表

8. ハディージャの商品を運ぶ — スィーラの注

9. ハディージャと祝福された結婚 — スィーラの注

10. 家庭と子どもたち — 家族の図；『サヒーフ・ブハーリー』3818

11. ザイド・ブン・ハーリサ：愛を選んだ子 — スィーラの注

12. アッラーの使徒ﷺの家のアリー — スィーラの注

13. カアバの再建 — 『サヒーフ・ブハーリー』3829、1584

14. 黒石と一枚の布 — スィーラの注

15. 数字で見るカアバ — カアバの平面図

16. 「アル＝アミーン」という呼び名 — 『サヒーフ・ブハーリー』4770

17. ハニーフの人々 — スィーラの注

18. 預言者となる前の兆し — 『サヒーフ・ムスリム』2277

19. ヒラーの洞窟での独居 — 事実の表

20. 偉大な人格 — 筆章 68:4

21. 若者への教訓 — 実践の表

22. 真正な伝承と有名な話のあいだ — 伝承の評価

23. 預言者となる直前の世界 — ローマ、ペルシア、ラフム朝、ズー・カールの戦い

24. 交易路とアラブの市場 — 地名と距離の表；ウカーズとフバーシャ

25. 歴史の足跡：クルアーン以前のアラビア文字 — ナマーラ、ザバド、ハッラーンの碑文；ヒマー

26. このシリーズの人物 — 人物表

27. 年表：スィーラと世界 — 西暦 578〜610 年の出来事

28. よくある質問 — 12 の質問

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

29. 教訓と結び

参考文献

支援と寄付

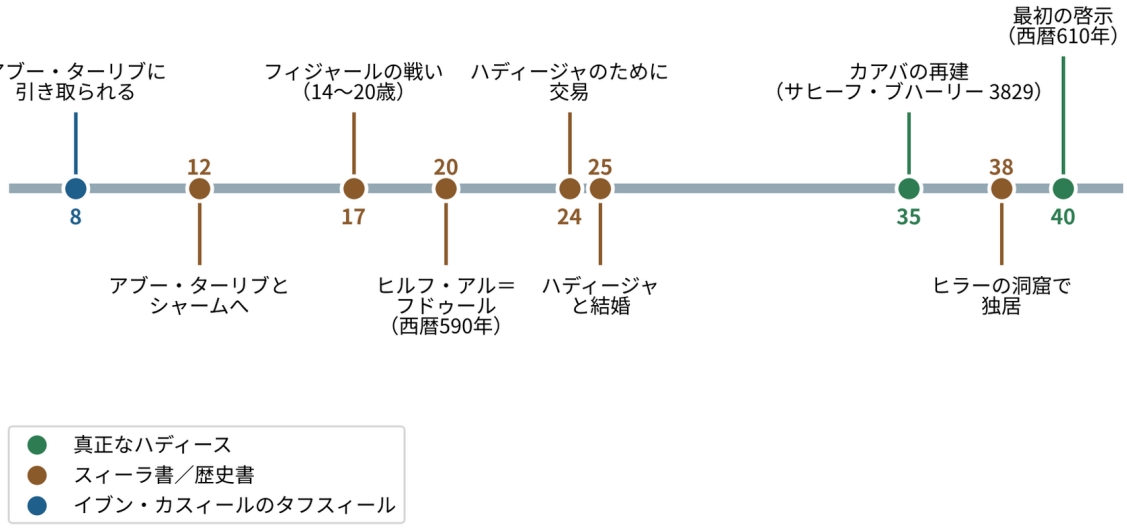
色の見方：緑の枠 = クルアーンの節；金色の枠 = ハディース；茶色の枠 = スィーラの注（スィーラ書の伝承）；青い表 = 比較。青い下線の伝承者名をクリックすると、sunnah.com の伝承者のページが開く。

アル＝アミーン – 民の中の誠実な人

『預言者伝』の第1巻は、おじアブー・ターリブのもとで羊を飼う孤児の少年の姿で終わりました。この第2巻はその続きです。**働く少年**から、**虐げられた者を守る青年**、**誠実な商人**、**夫であり父**へ、そしてヒラーの洞窟で独り瞑想する **40 歳の男性**に至るまで。

この間、民はかれに、めったに誰にも与えられない呼び名を贈りました。**アル＝アミーン**、すなわち誠実で信頼できる人です。本書のクルアーンの節と真正なハディースは、本当に関係のあるものだけを慎重に選び、スィーラ書の話は「スィーラの注」の枠に入れて、その信頼性を評価しています。

年表：少年期から最初の啓示まで（推定年齢）



数字はかれの年齢。ほとんどの出来事の年齢はスィーラ書による推定で、資料によって異なる。

図 1：青年期から最初の啓示までの年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。スィーラ書からの情報は茶色の「スィーラの注」の枠に入れ、歴史的事実には出典のリンクを付している。

民とともに生きる

ユーヌス章 10:16

قُل لَّوۡ شَآءَ ٱللَّهُ مَا تَلَوۡتُهُۥ عَلَيۡكُمۡ وَلَآ أَدۡرَىٰكُم بِهِۦۖ فَقَدۡ لَبِثۡتُ فِيكُمۡ عُمُرٗا مِّن قَبۡلِهِۦٓۚ أَفَلَا تَعۡقِلُونَ ١٦

言ってやるがいい。『アッラーの御心なら、わたしはあなたがたにそれを読誦せず、またかれは、あなたがたに教えられなかったであろう。その（啓示）前に、わたしは確かにあなたがたの間で、一生ほどの（40 年の）歳月を過ごした。あなたがたは未だ悟らないのか。』

訳：三田了一 — quran.com/10:16

10:16 の解説

アッラーは使徒にこう言うよう命じられました。「**わたしはこれ以前、一生の間あなたがたの間に住んでいたではないか**」。イブン・カスィールは説明します。かれは啓示の前に **40 年**クライシュ族とともに暮らし、彼らはかれが嘘をつくのを一度も見たことがなかったと。Tafsir Ibn Kathir 10:16。

この節は、**預言者となる前のかれの生涯**を論拠としています。人について一度も嘘をつかなかった人が、どうして突然アッラーについて嘘をつくでしょうか。だからこそ、この 40 年を学ぶことはとても大切です。それはかれの使命の**真実の証し**なのです。

本書で学ぶこと

時期	主な出来事
少年期（8〜20 歳）	アブー・ターリブの家、シャームへの旅、フィジャールの戦い、ヒルフ・アル＝フドゥール

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

時期	主な出来事
青年期（20〜25 歳）	ハディージャのための交易、結婚
壮年期（25〜35 歳）	家庭、ザイド・ブン・ハーリサ、アリー、カアバの再建
預言者となる直前（35〜40 歳）	「アル＝アミーン」の呼び名、預言者の兆し、ヒラーの洞窟

アブー・ターリブの家での少年時代

祖父アブドルムッタリブが亡くなると、かれは8歳ごろから**アブー・ターリブ**のもとで暮らしました。その家は狭く質素で、アブー・ターリブは貧しく子だくさんでした（第1巻）。こうした環境の中で、かれはマッカの人々の羊を飼って家計を助ける、**働く**少年として育ちました。

> **スィーラの注：おじの愛情**
>
> スィーラ書によれば、アブー・ターリブは甥をとても愛し、交易の旅にも**連れて行き**、離れることに耐えられないほどでした。この愛情は、アブー・ターリブが西暦 619 年ごろに亡くなるまで続きました。
>
> **参照：**
>
> ウィキペディア「Abu Talib ibn Abd al-Muttalib」https://en.wikipedia.org/wiki/Abu_Talib_ibn_Abd_al-Muttalib

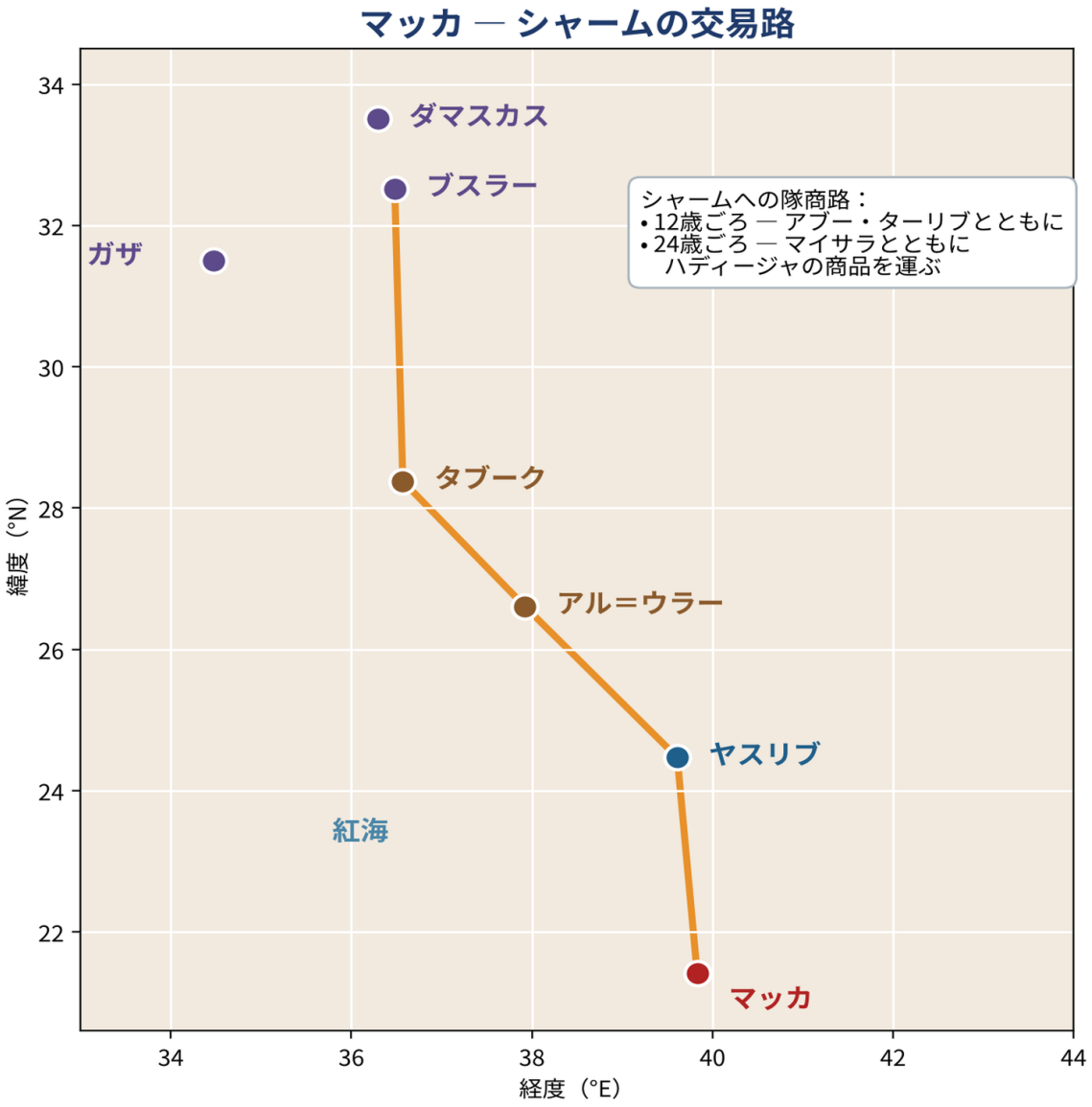
ぜいたくのない少年時代

学校も相続財産もありませんでした。かれの教育は**仕事と自然と社会**から来ました。マッカ周辺の牧草地、行き来する隊商、そして民の集いです。それでもアッラーはかれをジャーヒリーヤの行いから守られました。そのことはカアバ再建の出来事で見ることになります。

教訓：**若いころの苦労**は高貴さの妨げにはなりません。それは忍耐と質素さと責任感を育てる学校となりうるのです。

初めてのシャームへの旅

クライシュ族は毎年夏にシャームへ交易に出かけました（第1巻）。スィーラ書によれば、かれが **12 歳**ごろのとき、アブー・ターリブはかれを隊商に連れてシャームへ向かいました。これがかれにとって、マッカから遠く離れる初めての旅でした。



概略図。ヒジャーズのオアシスを通る推定経路。出典：Wikipedia「Quraysh」「Bosra」「Khadija bint Khuwaylid」。

図 2：マッカ – シャームの交易路（概略図）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ブスラー：砂漠の果てのローマの町

クライシュ族の隊商の目的地の一つが、現在のシリア南部ハウラーン地方の**ブスラー**でした。ウィキペディアによれば、ローマ軍が**西暦 106 年**にナバテア王国を征服したのち、ブスラーはローマの属州**アラビア・ペトラエア**の首都となりました。ビザンツ時代には司教座が置かれ、6 世紀には**大聖堂**が建てられました。

ブスラーの歴史の足跡	説明
ローマ劇場	2 世紀に建てられ、上層の回廊が完全に保存された唯一の同種の遺構。
ユネスコ世界遺産	「古代都市ボスラ」として 1980 年に登録。
イスラームによる開城	西暦 634 年、ハーリド・ブン・アル＝ワリード率いるイスラーム軍が開城。

出典：Wikipedia, “Bosra”。

乾いたマッカの谷から来た少年が、大きな石造りの建物が立ち並ぶローマの町を見る様子を想像してみてください。この旅はかれの目を**外の世界**、大帝国とその宗教に開かせました。それは、のちにかれの宣教の手紙を受け取ることになる世界でした。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

修道士バヒーラの話：一つの評価

シャームへの旅は、しばしば**バヒーラという修道士**の話と結びつけられます。この話はとても有名なので、その位置づけを誠実に見ておく必要があります。

スィーラの注：伝えられていること

イブン・イスハークの伝えによれば、ブスラーの修道士バヒーラは、クライシュ族の隊商の中の一人の少年を**雲が覆っている**のを見、その背中に**預言者の印**を見ました。彼はアブー・ターリブに、甥をすぐマッカへ連れ帰るよう忠告しました。アッ＝ティルミズィーもこの話の一つの版を伝えています。

参照：

ウィキペディア「Bahira」https://en.wikipedia.org/wiki/Bahira

学者の評価

観点	評価
典拠	イブン・イスハークとアッ＝ティルミズィー。『サヒーフ・ブハーリー』『サヒーフ・ムスリム』には見られない。
アッ＝ザハビーの批判	ティルミズィーの版にはアブー・バクルとビラールが出てくるが、当時アブー・バクルはまだ子どもで、ビラールは生まれていなかった。
結論	話の一部の内容には異論があり、細部まで依拠することはできない。

出典：Wikipedia, “Bahira”。

そのため本書では、バヒーラの話の細部の上に**いかなる教訓も築きません**。確かなのは、かれが交易の隊商とともにシャームへ行ったことがあるということです。こ

れはクライシュの若者には普通のことでした。そして、かれの預言者性の真実は、一人の修道士の認定に**依存しません**。

フィジャールの戦い

スィーラの注：聖なる月の戦い

ウィキペディアによれば、**フィジャールの戦い**は 6 世紀末に、一方は**クライシュ族とキナーナ族**、他方はハワーズィン族やサキーフ族を含む**カイス系の諸部族**との間で起こりました。発端は、戦いが禁じられた**聖なる月**に隊商の長が殺されたことでした。そのため「**フィジャール**」（冒涜）と呼ばれます。

戦いは**ウカーズの市場**周辺やマッカとターイフの間の地域で、約 4 年間続きました。最終的に和平が回復されました。

参照：

ウィキペディア「Fijar Wars」https://en.wikipedia.org/wiki/Fijar_Wars

かれの役割

諸資料によれば、おじたちはかれを戦場に連れて行き、かれは敵の**矢からおじたちを守りました**が、**自ら戦うことはありませんでした**。そのときの年齢は **14 歳から 20 歳**とされ、資料によって異なります。

この戦いは、アラブの部族が自分たちが神聖とする月にさえ、いかに**たやすく戦いを始めたか**を示しています。戦いの惨禍を目にした経験こそが、次の章で語る有名な和平の盟約の背景となりました。

教訓：イスラームはのちに**聖なる月の尊厳を保ち**（悔悟章 9:36）、戦いは部族の誇りのためではなく、ただ正義を打ち立て不正を退けるためにのみあると教えました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ヒルフ・アル＝フドゥール：虐げられた者を守る盟約

スィーラの注：アブドッラー・ブン・ジュドアーンの家での盟約

ウィキペディアによれば、**ヒルフ・アル＝フドゥール**は、フィジャールの戦いが終わった 1 か月後、ズル・カアダ月の**西暦 590 年**に結ばれました。指導者たちは**アブドッラー・ブン・ジュドアーンの家**に集まり、**虐げられた者は誰であれ守る**と誓いました。

きっかけは、イエメンのザビードから来た**一人の商人**が**アル＝アース・ブン・ワーイル**に商品を売ったものの、代金を払ってもらえなかったことでした。その商人にはマッカに力のある親族がいなかったため、正義を求めて訴えました。盟約は彼の権利を取り戻し、損失を償いました。

参照：

ウィキペディア「Hilf al-Fudul」https://en.wikipedia.org/wiki/Hilf_al-Fudul

参加した氏族

氏族	備考
ハーシム家	アッラーの使徒 ﷺ
ムッタリブ家	ハーシム家の同盟者
ズフラ家	かれの母の氏族
アサド家	ハディージャの氏族
タイム家	アブー・バクルの氏族。アブドッラー・ブン・ジュドアーンもこの氏族

預言者となった後のかれの姿勢

ウィキペディアによれば、使徒となった後も、かれは参加者の多くがムスリムではなかったにもかかわらず、**この盟約の価値を認め続けました**。スィーラ書は、イスラームの中でそのような盟約に招かれたなら応じるだろうという、かれの言葉を伝えています。この伝承は『**サヒーフ**』**二書には見られません**。

教訓：**正義は普遍的な価値です**。イスラームは、たとえ非ムスリムが始めたものであっても、弱い者を守り不正に立ち向かうあらゆる努力を支持します。今日、不正の犠牲者を守る団体を支えることは、ヒルフ・アル＝フドゥールの精神を受け継ぐことです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

働き、商う

羊飼いの時代（第1巻）を経て、かれはクライシュ族の主要な仕事である**交易**の世界に入りました。マッカの交易は**信頼**の上に成り立っていました。資本を持つ者が商品を他人に託してシャームやイエメンへ運ばせ、利益を分け合ったのです。

このような仕組みでは、**良い評判**こそ最も貴重な資本でした。誠実で信頼できる若者は、自分には何の財産がなくても、財産を持つ人々から求められます。そして、まさにそれがかれに起こったことでした。

商人の徳目

徳目	今日の実践
正直	商品の状態を、欠点も含めて正しく説明する。
信頼（アマーナ）	客や共同経営者の財産を自分のもののように守る。
約束を守る	約束の期日に商品を届け、借りを返す。
公正	はかりや量りをごまかさない。
寛容	困っている買い手の取引を楽にしてあげる。

これらの徳目は、のちに取引（ムアーマラート）に関するイスラームの教えとなりました。かれは、それが命じられる前から**実践していた**のです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハディージャの商品を運ぶ

スィーラの注：マイサラとの旅

ウィキペディアによれば、**ハディージャ・ビント・フワイリド**は成功した商人でした。彼女は自ら隊商に同行せず、**他の人を雇い**、手数料を払っていました。彼女の隊商は、クライシュ族の他のすべての商人の隊商を合わせたほどの規模だったと言われます。

彼女は当時 **20 代前半**だったかれを、通常の **2 倍の報酬**でシャームへの交易に雇いました。アブー・ターリブの許しを得て、かれはハディージャの使用人**マイサラ**とともに出かけ、**2 倍の利益**を上げて帰ってきました。

参照：

ウィキペディア「Khadija bint Khuwaylid」https://en.wikipedia.org/wiki/Khadija_bint_Khuwaylid

マイサラの報告

スィーラ書によれば、マイサラは旅の間のかれの**誠実さと人柄**をハディージャに語りました。一部の伝承は旅の途中の不思議な話を付け加えていますが、これらの追加の伝承は**真正ではなく**、ここには入れていません。

教訓：**仕事の成功**は、ごまかしではなく、誠実さと熱意から生まれます。賢い雇い主は、働き手を技能だけでなく**人柄**で評価するのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハディージャと祝福された結婚

ハディージャはクライシュ族の**アサド家**の出身でした。父**フワイリド・ブン・アサド**は商人であり指導者でした。ウィキペディアによれば、彼女はそれ以前に結婚したことがあり、資料は二人の前夫**アティーク・ブン・アーイズ**と**マーリク・ブン・ナッバーシュ**の名を挙げています。

スィーラの注：ナフィーサを通じた求婚

ウィキペディアによれば、ハディージャは友人**ナフィーサ**に、かれに結婚の意思があるか尋ねてもらいました。その後、両家が合意し、かれのおじたちが正式に求婚しました。誰が出席したかについては資料によって異なります。

参照：

ウィキペディア「Khadija bint Khuwaylid」https://en.wikipedia.org/wiki/Khadija_bint_Khuwaylid

結婚したときの年齢

事項	資料の説明
かれの年齢	約 25 歳（一部の資料では 22〜25 歳）。
ハディージャの年齢	有名な説：40 歳。一部の資料：約 28 歳。
年	西暦 595 年ごろ。
結婚生活の期間	約 25 年。西暦 619 年にハディージャが亡くなるまで。

出典：Wikipedia, “Khadija bint Khuwaylid”。

年齢についての違いはあっても、確かなのは、この結婚が財産や容姿ではなく**人柄**の上に築かれたということです。ハディージャが生きている間、かれは他の女性と結婚しませんでした。その誠実さは、かれの生涯を通じて記憶されました。

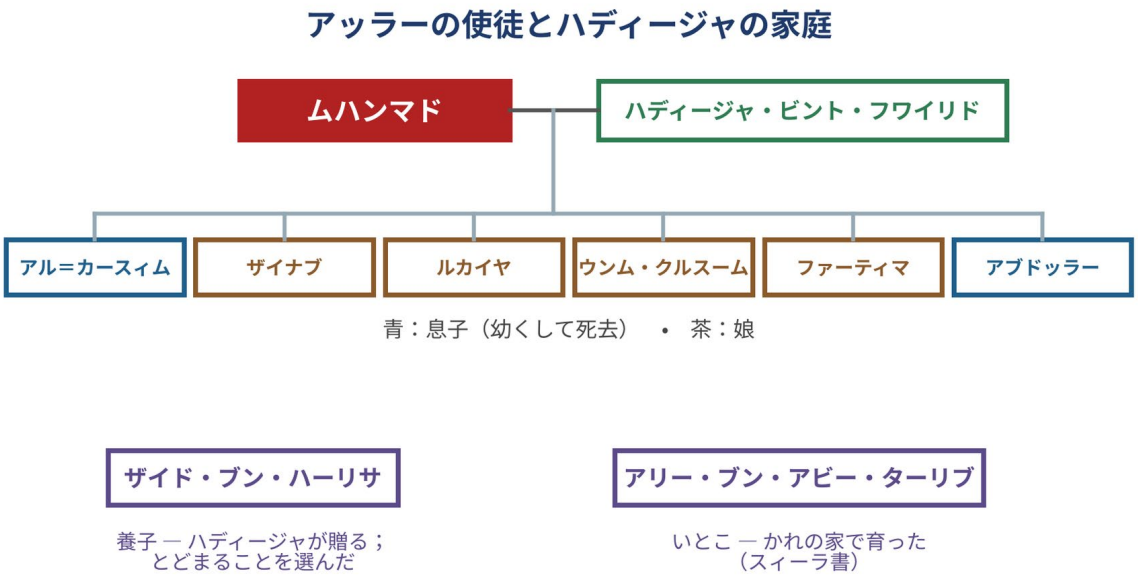
© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

イスラームにおけるハディージャの地位

ハディージャ رضى الله عنها は、啓示が下ったとき**最初に**かれを信じた人であり、財産と心をもってかれを慰め支えたのも彼女でした。『サヒーフ・ブハーリー』には、ジブリール عَلَيْهِ السَّلَامُ が**主からの平安の挨拶**をハディージャに伝え、天国の家の吉報を告げたことが記されています（Sahih al-Bukhari 3820）。

ハディージャの資質	私たちへの手本
賢い商人	女性もハラールな方法で商売に成功できる。
人柄で男性を評価した	信仰と人柄で伴侶を選ぶ。
誠実な支え手	夫を慰め、その奮闘を支える妻。
気前のよさ	財産を善行と宣教のために使う。

家庭と子どもたち



子どもの数については資料によって異なる（6人または8人）。出典：Wikipedia「Khadija bint Khuwaylid」「Zayd ibn Haritha al-Kalbi」。

図 3：アッラーの使徒 ﷺ とハディージャ رضي الله عنها の家庭。

ウィキペディアによれば、かれとハディージャの子どもは、幼くして亡くなった二人の息子**アル＝カースィム**と**アブドゥッラー**、そして四人の娘**ザイナブ、ルカイヤ、ウンム・クルスーム、ファーティマ**です。**アブル・カースィム**という呼び名は、長男の名前から取られています。

ハディージャが亡くなって何年もたってからも、かれは彼女を偲び続けました。アーイシャ رضى الله عنها はこう語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3818 番

حَدَّثَنِي عُمَرُ بْنُ مُحَمَّدِ بْنِ حَسَنٍ، حَدَّثَنَا أَبِي، حَدَّثَنَا حَفْصٌ، عَنْ هِشَامٍ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ عَائِشَةَ ـ رضى الله عنها ـ قَالَتْ مَا غِرْتُ عَلَى أَحَدٍ مِنْ نِسَاءِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم مَا غِرْتُ عَلَى خَدِيجَةَ، وَمَا رَأَيْتُهَا، وَلَكِنْ كَانَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يُكْثِرُ ذِكْرَهَا، وَرُبَّمَا ذَبَحَ الشَّاةَ، ثُمَّ يُقَطِّعُهَا أَعْضَاءً، ثُمَّ يَبْعَثُهَا فِي صَدَائِقِ خَدِيجَةَ، فَرُبَّمَا قُلْتُ لَهُ كَأَنَّهُ لَمْ يَكُنْ فِي الدُّنْيَا امْرَأَةٌ إِلاَّ خَدِيجَةُ. فَيَقُولُ إِنَّهَا كَانَتْ وَكَانَتْ، وَكَانَ لِي مِنْهَا وَلَدٌ.

訳：

アーイシャ رضى الله عنها は言った。「**わたしは、預言者 ﷺ の妻たちの誰に対しても、ハディージャに対するほど嫉妬したことはありません。わたしは彼女を見たこともないのに。けれども預言者 ﷺ はたびたび彼女のことを口にされました。**」ときにかれは羊を屠り、それをいくつかに切り分けて、ハディージャの友人たちに送られました。わたしがかれに「まるでこの世にハディージャ以外の女性はいないかのようですね！」と言うと、かれは答えられました。「**彼女はこうであり、ああであった。そして彼女から私は子を授かったのだ。**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：ウマル・ブン・ムハンマド・ブン・アル＝ハサン ← その父 ムハンマド・ブン・アル＝ハサン ← ハフス・ブン・ギヤース ← ヒシャーム・ブン・ウルワ ← その父 ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、預言者 ﷺ とハディージャの結婚と彼女の美徳の章（預言者 ﷺ とハディージャの結婚とその美徳）、ハディース第 3818 番。ムスリム（第 2435 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の合意によれば、クルアーンに次いで最も真正なハディース集である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3818

このハディースの教訓

第一：消えない誠実さ。 かれはいつもハディージャのことを口にし、**その友人たちに贈り物をして大切にされました。**

第二：伴侶を大切に思う。 妻の善行は、彼女が亡くなった後も**忘れられません。**

第三：人間らしさ。 このハディースはまた、アーイシャが自らの嫉妬の気持ちを正直に語ったこと、そしてかれがそれに優しく答えられたことを示しています。

ザイド・ブン・ハーリサ：愛を選んだ子

スィーラの注：さらわれた少年

ウィキペディアによれば、**ザイド・ブン・ハーリサ**は**カルブ族**の出身でした。幼いころにさらわれ、**ウカーズの市場**で売られました。**ハキーム・ブン・ヒザーム**が彼をおばのハディージャのために買い、ハディージャはのちに彼をかれに贈りました。

父とおじが彼を身請けしに来たとき、ザイドはかれのもとに**とどまることを選びました**。そこでかれはザイドを養子と宣言し、彼は**ザイド・ブン・ムハンマド**として知られるようになりました。

参照：

ウィキペディア「Zayd ibn Haritha al-Kalbi」https://en.wikipedia.org/wiki/Zayd_ibn_Haritha_al-Kalbi

なぜザイドは選んだのか

一人の少年が実の父のもとへ帰らないことを選んだ。これは、かれがザイドを奴隷としてではなく、**愛情をもって接していた**ことを示しています。かれの人柄の良さは、まず最も身近な人々によって感じられたのです。

その後の養子の規定

部族連合章 33:5 が下った後、養子は**実の父の名で呼ばれる**ようになり、ザイドは再びザイド・ブン・ハーリサと呼ばれました。ザイドは**最も早くイスラームに入った人々**の一人であり、西暦 629 年の**ムウタの戦い**で殉教しました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

名前が記された唯一の教友

ザイド・ブン・ハーリサは、クルアーンの中で名前がはっきり記された**唯一の教友**です（部族連合章 33:37）。この栄誉は、かつて市場で売られた奴隷だった人に与えられました。**アッラーのもとでの高貴さ**は家柄や財産にあるのではないという証しです。

その息子**ウサーマ・ブン・ザイド**は、のちにまだ若いうちにかれによって軍の司令官に任命されました。ザイドの家族へのかれの愛情は、世代を越えて続いたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アッラーの使徒 ﷺ

スィーラの注：アブー・ターリブへの恩返し

スィーラ書によれば、ある**干ばつの年**、クライシュ族は暮らしに困窮しました。アブー・ターリブは子だくさんで財産はわずかでした。アッラーの使徒 ﷺ はおじのアル＝アッバースを誘って、アブー・ターリブの**負担を軽くしよう**としました。かれは**アリー**を、アル＝アッバースは**ジャアファル**を引き取りました。

こうしてアリーはかれとハディージャの家で育ち、啓示が下ったとき**最も早く**信仰した人々の一人となりました。

教訓

第一：恩に報いる。 アブー・ターリブは幼いかれを養い、かれは大人になってアブー・ターリブの**負担を軽くしました。**

第二：人を育てる家。 かれとハディージャの家は、ザイドとアリーという二人のイスラームの偉人が**育つ場所**となりました。

第三：家族の助け合い。 苦しいときには、大家族が**互いに助け合います。**今日、困っている親族を助けること、たとえばその子どもたちの教育を支えることは、生きたスンナです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

カアバの再建

かれが **35 歳**ごろのとき、カアバは傷んでいました。ウィキペディアによれば、**火災**によって構造が弱り、その後**洪水**が被害を与えました。クライシュ族はカアバを取り壊して建て直すことに決めました。

スィーラの注：ローマの船の木材

ウィキペディアによれば、建築用の木材は、紅海沿岸の**シュアイバ**で難破した**ビザンツの船**から取られました。その船に乗っていたエジプトのコプト人の大工**バークーム**が大工仕事を行いました。

参照：

ウィキペディア「Kaaba」https://en.wikipedia.org/wiki/Kaaba

アッラーの使徒 ﷺ も、おじのアル＝アッバースとともに**石を運びました**。このとき、アッラーが預言者となる前からかれを**守っておられた**ことを示す出来事が起こりました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 3829 番

حَدَّثَنِي مَحْمُودٌ، حَدَّثَنَا عَبْدُ الرَّزَّاقِ، قَالَ أَخْبَرَنِي ابْنُ جُرَيْجٍ، قَالَ أَخْبَرَنِي عَمْرُو بْنُ دِينَارٍ، سَمِعَ جَابِرَ بْنَ عَبْدِ اللَّهِ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ لَمَّا بُنِيَتِ الْكَعْبَةُ ذَهَبَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم وَعَبَّاسٌ يَنْقُلاَنِ الْحِجَارَةَ، فَقَالَ عَبَّاسٌ لِلنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم اجْعَلْ إِزَارَكَ عَلَى رَقَبَتِكَ يَقِيكَ مِنَ الْحِجَارَةِ، فَخَرَّ إِلَى الأَرْضِ، وَطَمَحَتْ عَيْنَاهُ إِلَى السَّمَاءِ ثُمَّ أَفَاقَ فَقَالَ «إِزَارِي إِزَارِي». فَشَدَّ عَلَيْهِ إِزَارَهُ.

訳：

ジャービル・ブン・アブディッラー رضى الله عنهما は言った。カアバが（再び）建てられたとき、預言者 ﷺ とアル＝アッバースは石を運びに行った。アル＝アッバースは預言者 ﷺ に言った。「腰布を首の上に置きなさい。石から身を守ってくれるだろう。」する

と、かれは地面に倒れ、両目を開けて空を見つめておられた。それから正気に戻られて言われた。「**わたしの腰布を！わたしの腰布を！**」そこで腰布はふたたびかれに結ばれた。

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：マフムード・ブン・ガイラーン ← アブドッラッザーク ← イブン・ジュライジ ← アムル・ブン・ディーナール ← ジャービル・ブン・アブディッラー رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』援助者たちの美徳の書、カアバの建設の章、ハディース第 3829 番。ムスリム（第 340 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の合意によれば、クルアーンに次いで最も真正なハディース集である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:3829

このハディースの教訓

人前で肌をあらわにすることは、ジャーヒリーヤ時代の働き手にはごく普通のことでした。しかしアッラーは使徒の**アウラ（隠すべき部分）を守られました。**腰布が持ち上げられた途端にかれは気を失い、意識が戻るとすぐに腰布を求められたのです。かれの慎み深さは、シャリーアが定める前からアッラーによって守られていました。

なぜカアバは小さくなったのか

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 1584 番

حَدَّثَنَا مُسَدَّدٌ، حَدَّثَنَا أَبُو الأَحْوَصِ، حَدَّثَنَا أَشْعَثُ، عَنِ الأَسْوَدِ بْنِ يَزِيدَ، عَنْ عَائِشَةَ ـ رضى الله عنها ـ قَالَتْ سَأَلْتُ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم عَنِ الْجَدْرِ أَمِنَ الْبَيْتِ هُوَ قَالَ «نَعَمْ». قُلْتُ فَمَا لَهُمْ لَمْ يُدْخِلُوهُ فِي الْبَيْتِ قَالَ «إِنَّ قَوْمَكِ قَصَّرَتْ بِهِمُ النَّفَقَةُ». قُلْتُ فَمَا شَأْنُ بَابِهِ مُرْتَفِعًا قَالَ «فَعَلَ ذَلِكِ قَوْمُكِ لِيُدْخِلُوا مَنْ شَاءُوا وَيَمْنَعُوا مَنْ شَاءُوا، وَلَوْلاَ أَنَّ قَوْمَكِ حَدِيثٌ عَهْدُهُمْ بِالْجَاهِلِيَّةِ فَأَخَافُ أَنْ تُنْكِرَ قُلُوبُهُمْ أَنْ أُدْخِلَ الْجَدْرَ فِي الْبَيْتِ وَأَنْ أُلْصِقَ بَابَهُ بِالأَرْضِ».

訳：

アーイシャ رضى الله عنها は言った。わたしは預言者 ﷺ に、その半円形の壁（ヒジュル）について、カアバの一部なのかとお尋ねした。かれは答えられた。「**そうだ。**」わたしは尋ねた。「ではなぜ彼らはそれをカアバの建物に含めなかったのですか。」かれは答えられた。「**あなたの民は費用が足りなかったのだ。**」わたしは尋ねた。「なぜ扉は高いのですか。」かれは答えられた。「**あなたの民は、望む者を入れ、望む者を締め出すためにそうしたのだ。もしあなたの民がジャーヒリーヤから離れたばかりでなく、彼らの心がそれを拒むことを恐れなかったなら、わたしはその壁をカアバに含め、扉を地面の高さまで下げただろう。**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：ムサッダド ← アブル・アフワス ← アシュアス・ブン・アビー・アッ＝シャアサー ← アル＝アスワド・ブン・ヤズィード ← アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』巡礼の書、マッカの美徳とその建設の章、ハディース第 1584 番。ムスリム（第 1333 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の合意によれば、クルアーンに次いで最も真正なハディース集である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:1584

このハディースの教訓

第一：ハラールな財産のみで。 クライシュ族は**費用が足りず**、カアバの一部が建物の外に残されました。それが現在**ヒジュル・イスマーイール**として知られる場所です。

第二：変革における英知。 かれはそれを正したいと望まれましたが、ジャーヒリーヤを離れたばかりの民が拒むことを恐れて**先延ばしにされました**。賢い指導者は**社会の準備ができているか**を考えるのです。

黒石と一枚の布

カアバの建設が**黒石（ハジャル・アスワド）**の位置まで来たとき、クライシュの諸氏族は**争い始めました**。どの氏族も、その石を元の場所に置く栄誉を得たがったのです。争いは流血寸前にまで至りました。

スィーラの注：公正な解決

スィーラ書によれば、彼らはマスジド・ハラームに**最初に入ってきた人**の判断に従うことで合意しました。その人は**ムハンマド**でした。彼らは言いました。「アル＝アミーンだ。われわれは彼に満足する。」

ウィキペディアによれば、かれは一枚の**布**を求め、その上に黒石を置き、**各氏族の長たち**に布の端を持たせて一緒に持ち上げさせました。そしてかれ自身がその手で**石を元の場所に置かれました**。

参照：

ウィキペディア「Kaaba」https://en.wikipedia.org/wiki/Kaaba

リーダーシップの教訓

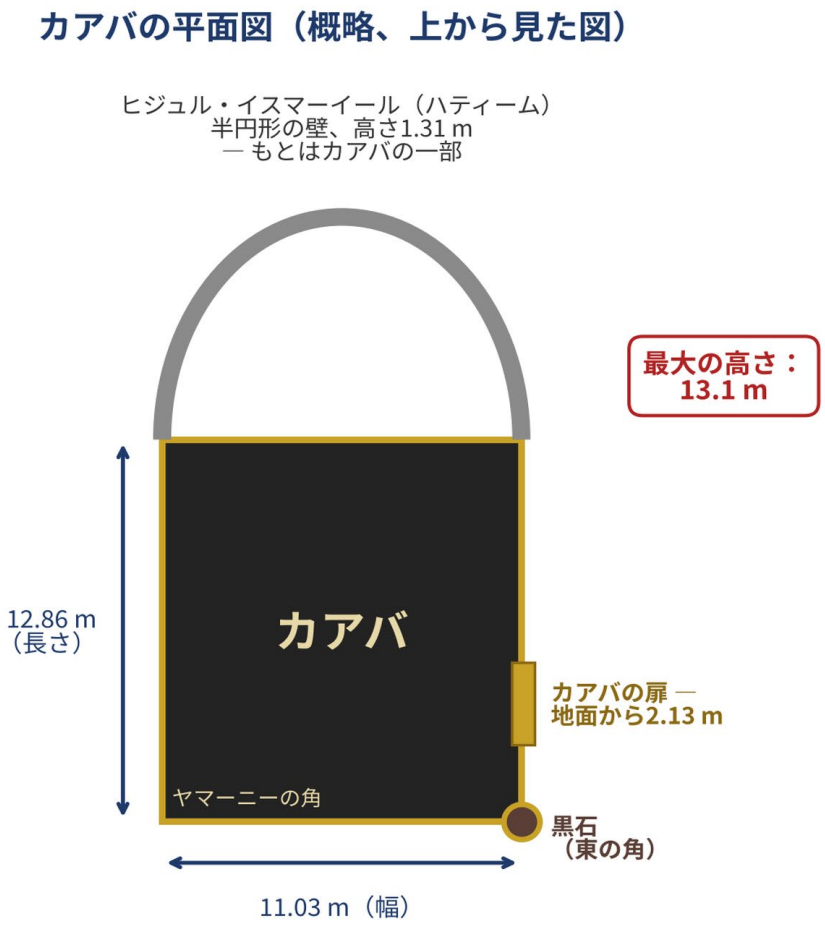
かれの行動	教訓
一枚の布を求めた	創造的で簡単な解決策を探す。
各氏族が布の端を持った	すべての関係者を巻き込み、誰も疎外感を持たないようにする。
かれ自身が石を置いた	指導者は命じるだけでなく、自ら実行する。
誠実さゆえに受け入れられた	信頼は、必要になるずっと前から何年もかけて築かれる。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

この話はスィーラ書で有名で、『サヒーフ』二書以外のさまざまな伝承経路で伝えられています。その核心、すなわちかれが黒石をめぐる争いを解決したことは、歴史家に広く受け入れられています。

数字で見るカアバ

今日私たちが見るカアバは、今も**クライシュ族の建てた土台**の上に立っています。ウィキペディアによれば、西暦 683 年にアブドッラー・ブン・アッ＝ズバイルがヒジュルの部分を含めて建て直したのち、カリフのアブドルマリク・ブン・マルワーンが**西暦 693 年**にクライシュの土台の上に再建し、それ以来その基本形が保たれています。



寸法はWikipedia「Kaaba」による（他の資料ではわずかに異なる）。クライシュ族は資金不足のためヒジュルの部分を外に残した。

図 4：カアバとヒジュル・イスマーイールの平面図（概略図）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

特徴	寸法／説明
長さ	12.86 m
幅	11.03 m
最大の高さ	13.1 m
扉	北東の壁、地面から 2.13 m
ヒジュル・イスマーイール	半円形の大理石の壁、高さ 1.31 m、幅 1.5 m
再建	クライシュ族（西暦 600〜605 年ごろ）、イブン・アッ＝ズバイル（683 年）、アブドルマリク（693 年）、ムラト 4 世（1626〜1627 年）

出典：Wikipedia, “Kaaba”。ウィキペディアは別の寸法（高さ約 15 m、12 m × 10.5 m）も挙げていますが、この違いは測り方によるものです。

今日タワーフ（周回）をするとき、私たちはヒジュル・イスマーイールの外側を歩きます。そこが**カアバの一部**だからです。これは、アーイシャ رضى الله عنها のハディースにあるように、クライシュ族がハラールな財産だけを使うと決めたことの直接の結果です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「アル＝アミーン」という呼び名

黒石の出来事は、預言者となる前からクライシュ族がかれを**アル＝アミーン**と呼んでいたことを示しています。かれの誠実さについての最もはっきりした証言は、かれが公然と宣教を始めたときに、その民自身から出てきました。

ハディース – 『サヒーフ・ブハーリー』第 4770 番

حَدَّثَنَا عُمَرُ بْنُ حَفْصِ بْنِ غِيَاثٍ، حَدَّثَنَا أَبِي، حَدَّثَنَا الأَعْمَشُ، قَالَ حَدَّثَنِي عَمْرُو بْنُ مُرَّةَ، عَنْ سَعِيدِ بْنِ جُبَيْرٍ، عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ لَمَّا نَزَلَتْ {وَأَنْذِرْ عَشِيرَتَكَ الأَقْرَبِينَ} صَعِدَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم عَلَى الصَّفَا فَجَعَلَ يُنَادِي «يَا بَنِي فِهْرٍ، يَا بَنِي عَدِيٍّ». لِبُطُونِ قُرَيْشٍ حَتَّى اجْتَمَعُوا، فَجَعَلَ الرَّجُلُ إِذَا لَمْ يَسْتَطِعْ أَنْ يَخْرُجَ أَرْسَلَ رَسُولاً لِيَنْظُرَ مَا هُوَ، فَجَاءَ أَبُو لَهَبٍ وَقُرَيْشٌ فَقَالَ «أَرَأَيْتَكُمْ لَوْ أَخْبَرْتُكُمْ أَنَّ خَيْلاً بِالْوَادِي تُرِيدُ أَنْ تُغِيرَ عَلَيْكُمْ، أَكُنْتُمْ مُصَدِّقِيَّ». قَالُوا نَعَمْ، مَا جَرَّبْنَا عَلَيْكَ إِلاَّ صِدْقًا. قَالَ «فَإِنِّي نَذِيرٌ لَكُمْ بَيْنَ يَدَىْ عَذَابٍ شَدِيدٍ». فَقَالَ أَبُو لَهَبٍ تَبًّا لَكَ سَائِرَ الْيَوْمِ، أَلِهَذَا جَمَعْتَنَا فَنَزَلَتْ {تَبَّتْ يَدَا أَبِي لَهَبٍ وَتَبَّ ، مَا أَغْنَى عَنْهُ مَالُهُ وَمَا كَسَبَ}

訳：

イブン・アッバース رضى الله عنهما は言った。〈あなたの近親に警告しなさい〉という節が下ったとき、預言者 ﷺ はサファーの丘に登り、「フィフル家よ！アディー家よ！」とクライシュの諸氏族に呼びかけ、彼らが集まった。出て来られない者は、何が起きたのかを見に使いを送った。アブー・ラハブとクライシュの人々もやって来た。かれは言われた。**「もしわたしが、この谷に騎兵の一団がいて、あなたがたを襲おうとしていると告げたなら、あなたがたはわたしを信じるだろうか。」** 彼らは答えた。**「もちろんだ。われわれはあなたが真実を語る者だとしか知らない。」** かれは言われた。**「わたしは、厳しい懲罰についてあなたがたに警告する者である。」** アブー・ラハブは言った。「一日中おまえは滅びるがいい！このためにわれわれを集めたのか。」そこで〈アブー・ラハブの両手は滅び、かれも滅びてしまえ〉という節が下った。

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：ウマル・ブン・ハフス・ブン・ギヤース ← その父 ハフス・ブン・ギヤース ← アル＝アアマシュ ← アムル・ブン・ムッラ ← サイード・ブン・ジュバイル ← イブン・アッバース رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』クルアーン解釈の書、詩人たち章、ハディース第 4770 番。ムスリム（第 208 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の合意によれば、クルアーンに次いで最も真正なハディース集である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4770

このハディースの教訓

第一：敵の証言。 アブー・ラハブを含むクライシュの人々は認めました。「**われわれはあなたが真実を語る者だとしか知らない。**」 この告白は、のちにかれに敵対した人々の口から出たものです。

第二：宣教の元手。 40 年間の誠実さは、かれが使命を伝えるときの**信頼の土台**となりました。今日の宣教者も、言葉より先に人柄で知られる必要があります。

第三：真実と拒絶。 彼らはかれの誠実さを認めながら、それでも宣教を拒みました。**導きは論証だけで得られるものではなく**、アッラーからの恵みなのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハニーフの人々

ジャーヒリーヤ時代、すべてのアラブ人が偶像を崇拝していたわけではありません。**ハニーフ**と呼ばれるわずかな人々がいました。偶像崇拝を拒み、預言者イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ の宗教を求めた人々です。

> **スィーラの注：ザイド・ブン・アムル・ブン・ヌファイル**
>
> 最も有名な一人が、サイード・ブン・ザイド ***Zaid bin ‘Amr bin Nufail*** の父ザイド・ブン・アムル・ブン・ヌファイルです。『サヒーフ・ブハーリー』は、彼が**偶像のために屠られたものを食べず**、アッラー以外の名で屠るクライシュ族を非難し、真の宗教を求めてシャームへ行ったと伝えています。彼は預言者の時代の前に亡くなりました。
>
> **参照：**
>
> 『サヒーフ・ブハーリー』3826〜3827。https://sunnah.com/bukhari:3826

ハニーフの存在は、偶像を崇拝する社会の中でさえ、人間の**フィトラ（生まれながらの本性）**が唯一の神を求め続けていたことを示しています。マッカの社会は**光を待っていた**のです。

アッラーの使徒 ﷺ と偶像

預言者となる前、かれは**偶像を崇拝しませんでした。**カアバ建設の出来事でアウラを守られたように、アッラーはかれを民の多神崇拝の行いから守られました。独りになって礼拝することを好んだかれは、やがてヒラーの洞窟へと導かれていきます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

預言者となる前の兆し

預言者となる時が近づくにつれ、のちに初めて十分に理解されるいくつかの兆しが現れました。アッラーの使徒 ﷺ 自身がその一つを語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 2277 番

وَحَدَّثَنَا أَبُو بَكْرِ بْنُ أَبِي شَيْبَةَ، حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَبِي بُكَيْرٍ، عَنْ إِبْرَاهِيمَ بْنِ طَهْمَانَ، حَدَّثَنِي سِمَاكُ بْنُ حَرْبٍ، عَنْ جَابِرِ بْنِ سَمُرَةَ، قَالَ قَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم «إِنِّي لأَعْرِفُ حَجَرًا بِمَكَّةَ كَانَ يُسَلِّمُ عَلَىَّ قَبْلَ أَنْ أُبْعَثَ إِنِّي لأَعْرِفُهُ الآنَ».

訳：

ジャービル・ブン・サムラ رضى الله عنه は言った。アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「**わたしは、遣わされる前にわたしに挨拶していたマッカの一つの石を知っている。わたしは今もそれを知っている。**」

伝承経路 イマーム・ムスリムの伝承：アブー・バクル・ブン・アビー・シャイバ ← ヤフヤー・ブン・アビー・ブカイル ← イブラーヒーム・ブン・タフマーン ← スィマーク・ブン・ハルブ ← ジャービル・ブン・サムラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』美徳の書、預言者 ﷺ の家系の優越と預言者となる前に石がかれに挨拶したことの章、ハディース第 2277 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:2277

このハディースの教訓

第一：自然界は使徒を知っていた。 マッカの一つの石が、遣わされる前のかれに**挨拶していました。**アッラーがかれを尊ばれたしるしです。

第二：消えない記憶。 かれは「**わたしは今もそれを知っている**」と言われました。その出来事が真実であり、記憶されていたことを示しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

真実の夢

『サヒーフ・ブハーリー』の中でアーイシャ رضى الله عنها は、啓示の始まりは**真実の夢**であったと語っています。かれの見る夢はすべて**夜明けの光**のように現実となりました。その後、かれはヒラーの洞窟で**独りになることを好まれる**ようになりました。詳しい話は第 3 巻で述べます。Sahih al-Bukhari 3

ヒラーの洞窟での独居

40 歳が近づくと、かれはマッカ近くの**ジャバル・アン＝ヌール（光の山）**の頂にある小さな洞窟で**独りで過ごす**ことをますます好まれるようになりました。そこで何日も礼拝（タハンヌス）を行い、食料を持って行っては、ハディージャのもとへ戻ってまた食料を持って行かれました。

数字で見るヒラーの洞窟

事項	説明
ジャバル・アン＝ヌールの高さ	約 640 m
洞窟の位置	約 270 m（ウィキペディアによる）
洞窟の大きさ	長さ約 3.7 m、幅約 1.6 m
今日の登山	約 1,750 段の階段、1〜2 時間
独居の期間	歴史資料によれば毎年 1 か月
最初の啓示	西暦 610 年 8 月ごろ、ラマダーン月

出典：Wikipedia, “Mount Hira”。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

なぜ独りになったのか

マッカの社会は偶像と商売と部族の争いに満ちていました。ヒラーの洞窟で、かれは**喧騒から遠く離れ**、アッラーの偉大さと民の状態について深く思いをめぐらされました。この洞窟からは、マッカとカアバを遠くに望むことができます。

教訓：私たちは誰もが**アッラーとともに独りになる時間**を必要としています。夜の最後の三分の一であれ、イウティカーフ（籠り）であれ、スマートフォンを置いたほんの数分であれ。いつも忙しい心は、光を受け入れにくいのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

今日のジャバル・アン＝ヌール訪問

多くの巡礼者がヒラーの洞窟を見るためにジャバル・アン＝ヌールに登ります。学者たちは、その登山は**ハッジやウムラの儀礼の一部ではない**こと、またその洞窟で礼拝や祈りをすることに特別な功徳があるという典拠はないことを説明しています。啓示の始まりについて**教訓を得る**ために訪れることはできます。

登山者へのアドバイス	理由
朝か夕方に登る	マッカの日中は非常に暑い。
十分な水を持参する	登山には 1〜2 時間かかる。
清潔さと礼儀を守る	この歴史的な場所は多くの人が訪れる。
典拠のない行いを避ける	礼拝はスンナに基づかなければならない。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

偉大な人格

筆章 68:4

وَإِنَّكَ لَعَلَىٰ خُلُقٍ عَظِيمٍ ﴿٤﴾

本当にあなたは、崇高な徳性を備えている。

訳：三田了一 — quran.com/68:4

68:4 の解説

アッラーは仰せられました。「**本当にあなたは、崇高な徳性を備えている**」。イブン・カスィールは、かれの人格はクルアーンそのものであった、すなわちその命令を実行し、その禁止を避けておられたという、アーイシャ ***Al-Qur'an*** の説明を引用しています。Tafsir Ibn Kathir 68:4。

預言者となる前の 40 年間は、さまざまな場面でこの人格を示していました。最初の啓示が下ったとき、ハディージャ رضى الله عنها はまさにその人格を挙げてかれを慰めました。親族の絆を結び、弱い者を支え、持たない者を助け、客をもてなし、困難にある者を助けておられると（Sahih al-Bukhari 3）。

本書に見る人格

人格	出来事
勤勉	羊飼いと交易
虐げられた者を守る	ヒルフ・アル＝フドゥール
誠実さ（アマーナ）	ハディージャの商品；「アル＝アミーン」の呼び名
誠実な愛情	ハディージャを偲ぶ（『サヒーフ・ブハーリー』3818）

人格	出来事
慈しみ	ザイドがかれのもとにとどまることを選んだ
恩に報いる	アブー・ターリブの負担を軽くするためにアリーを引き取った
英知と公正	黒石の問題の解決
慎み深さ	腰布の出来事（『サヒーフ・ブハーリー』3829）

若者への教訓

アッラーの使徒 ﷺ の青年期と壮年期は、今日の**若者にとって最良の手引き**です。かれは財産を受け継ぎませんでしたが、人柄と勤勉によって尊敬される名を築かれました。

スィーラから	若者のための実践
若いうちから働く	小さくてもハラールな仕事を恥じない。
旅から学ぶ	開かれた目と守られた心で外の世界を知る。
ヒルフ・アル＝フドゥール	弱い者、虐げられた者を守る取り組みに参加する。
商売における誠実さ	利益を追う前に良い評判を築く。
人柄で伴侶を選ぶ	信仰と人柄を一番の基準にする。
アウラと尊厳を守る	他の人がおろそかにしても慎みを保つ。
アッラーとともに独りになる時間	自己反省と礼拝の時間をつくる。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

親への省察

アブー・ターリブの貧しい家は誠実な若者を育て、かれとハディージャの家はザイドとアリーを育てました。**愛情とよい手本に満ちた家**は、ぜいたくよりも大切です。子どもたちを、忠告だけでなく手本によって育てましょう。

最後に、10:16 の節を思い出しましょう。預言者となる前のかれの生涯は**真実の論証**となりました。今日の私たちの生き方もまた、私たちが呼びかけることを裏づけるか、あるいは否定するかの証人となるのです。

真正な伝承と有名な話のあいだ

アッラーの使徒 ﷺ の青年期と壮年期については、多くの話が世間に広まっています。

次の表は、真正なもの、スィーラ書によるもの、異論のあるものを区別しています。

話とその位置づけ

有名な話	位置づけ
少年時代にアブー・ターリブとともにシャームへ行った。	スィーラ書の伝承。一般に受け入れられている。
修道士バヒーラがかれの預言者の印に気づいた。	イブン・イスハークとアッ＝ティルミズィーの伝承。内容の一部はアッ＝ザハビーら学者が疑問視している。
ヒルフ・アル＝フドゥールに参加した。	スィーラ書と歴史書の伝承。受け入れられている。
結婚したときハディージャは 40 歳だった。	有名な説。一部の資料は約 28 歳とする。
ハディージャを偲び、その友人たちを大切にした。	サヒーフ（『サヒーフ・ブハーリー』 3818）。
カアバ再建のときに石を運んだ。	サヒーフ（『サヒーフ・ブハーリー』 3829）。
資金不足のためヒジュル・イスマーイールが外に残された。	サヒーフ（『サヒーフ・ブハーリー』 1584）。
一枚の布で黒石をめぐる争いを解決した。	さまざまな伝承経路をもつスィーラ書の伝承。広く受け入れられている。
遣わされる前に一つの石がかれに挨拶した。	サヒーフ（『サヒーフ・ムスリム』 2277）。
マイサラとの旅の途中の不思議な出来事。	真正でない付け加え。本書には入れていない。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

省察

かれの物語は、付け加えがなくても十分に美しいものです。真正な伝承だけで、**愛を深め**、手本とするのに十分なのです。

預言者となる直前の世界

アッラーの使徒ﷺの最初の 40 年は、アラビア半島を取り巻く世界が急速に変化していた時代でした。東ローマ（ビザンツ）とペルシア（サーサーン朝）の二大帝国は戦いを続け、その同盟者であるアラブの王国は崩れ、アラブの部族は大国に立ち向かうようになっていきました。この章では、かれの青年期と壮年期の物語を、そうした世界の出来事の中に位置づけます。

ローマに助けられたペルシア王

西暦 590 年、かれが 20 歳ごろ、すなわちヒルフ・アル＝フドゥールのころ、**ホスロー2 世**がペルシア王となりました。彼は当初、反乱を起こした将軍に王位を追われ、ローマ領に逃れました。ローマ皇帝マウリキウスは、国境のいくつかの地域と町と引き換えに、軍を送って彼の王位奪還を助けました。ホスロー2 世は西暦 628 年まで統治しました。

出典：World History Encyclopedia, “Khosrow II”。

大戦争の再開（西暦 602 年）

西暦 602 年、かれが 32 歳ごろのとき、マウリキウスはフォカスによって家族とともに廃位され殺されました。ホスロー2 世はこれを口実にローマに攻め込み、両帝国の長い戦争が始まりました。ペルシア軍は多くのローマの町を占領しました。そして**西暦 610 年**、ヒラーの洞窟に最初の啓示が下った年に、フォカスが廃位されてヘラクレイオスがローマ皇帝となりました。

この戦争こそ、のちにクルアーンのビザンチン章の冒頭で語られるものです。ローマは敗れたが、数年のうちに再び勝利するであろう、と（Surah Ar-Rum 30:2–4）。その全容は、これからのシリーズで述べます。イン・シャー・アッラー。

出典：World History Encyclopedia, “Khosrow II”。

ラフム朝の滅亡とズー・カールの戦い

イラクとの境、ヒーラの**ラフム族**は長くペルシアの同盟者でした。**西暦 602 年**、ペルシアはラフム朝を廃し、その王ヌウマーン 3 世は捕らえられて獄中で亡くなりました。このアラブの仲介者を失って、ペルシアとアラブ諸部族の関係は緊張しました。

数年後、**ズー・カールの戦い**が起こりました。現代の研究者はこれを**西暦 604 年から 611 年**の間に置いています。バクル・ブン・ワーイル族、特にシャイバーン族の連合が、ペルシア軍とそのアラブの同盟者を打ち破りました。この戦いの規模については歴史家の間で意見が分かれ、小さな衝突にすぎないとする人もいますが、アラブ人にとってはペルシア軍に対する初めての勝利として記憶されました。

出典：Wikipedia, “Battle of Dhu Qar”。

> **歴史の注：ペルシア支配下のイエメン**
>
> 570 年代初めにイエメンのアビシニア支配が終わると（第 1 巻）、イエメンはペルシアが任命した総督によって治められました。つまり、かれの青年期と壮年期を通じて、クライシュの隊商は南（イエメン）ではペルシアの勢力圏で、北（シャーム）ではローマの領域で交易していたのです。マッカはその中間にあり、どちらの帝国にも支配されていませんでした。

教訓

大帝国が戦争に明け暮れ、互いを倒し合っていたとき、アッラーはローマにもペルシアにも支配されていない町マッカで、静けさの中に使徒を準備しておられました。この世の力は来ては去りますが、真実は残ります。今日の世界のニュースに心が騒ぐとき、アッラーがその英知によって歴史を司っておられることを思い出しましょう。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

交易路とアラブの市場

かれの青年期と壮年期は交易と深く結びついています。アブー・ターリブとのシャームへの隊商、ハディージャの商品、ウカーズの市場への道中で始まったフィジャールの戦い、そして売り買いのもめごとから生まれたヒルフ・アル＝フドゥール。この章では、それらの場所をまとめます。

重要な場所

表の距離は、現代の地図の座標から計算したマッカからの**直線距離**です。実際の隊商路はもっと長くなります。正確な位置がはっきりしない場所の距離は、推定として示しています。

場所	このシリーズとの関わり	マッカからの距離
マッカ	かれの町。クライシュ族が再建したカアバ。	—
ジャバル・アン＝ヌール（ヒラーの洞窟）	預言者となる前に、かれが独りで過ごした場所。	約 5 km
ウカーズの市場	ナフラとターイフの間にあったアラブ最大の年市。フィジャールの戦いと関わる。	約 70 km（推定）
ターイフ	サキーフ族の町。フィジャールの戦いの当事者の一つ。	約 63 km
アッ＝シュアイバ	紅海に面したマッカの古い港。ローマの船が難破し、その木材がカアバに使われた。	約 75 km（推定）
フバーシャの市場	マッカ地方にあった古代の年市。2023 年に研究者がその跡地を特定した（下記参照）。	推定
ヤスリブ（マディーナ）	シャームへの隊商路上の町。	約 340 km
ブスラー（シャーム）	クライシュの隊商の目的地。かれの初めてのシャームへの旅。	約 1,280 km

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

場所	このシリーズとの関わり	マッカからの距離
ダマスカス（シャーム）	ローマ支配下のシャームの大都市。	約 1,390 km
サヌアー（イエメン）	冬の隊商の目的地。当時はペルシアの勢力下。	約 815 km

距離は現代の座標から計算して丸めたもので、目安にすぎません。

冬と夏の旅

アッラーはクライシュ族に、彼らの「冬と夏の旅」の恵みを思い起こさせられました（Surah Quraisy 106:1–4）。冬には隊商はイエメンへ、夏にはシャームへ向かいました。ブスラーまでの片道は何週間もかかりました。かれはこの道を少なくとも 2 回通りました。少年のときにアブー・ターリブとともに、そして大人になってハディージャの商品を運んだときです。

ウカーズの市場：市場であり詩の舞台

ウィキペディアによれば、**ウカーズの市場**はジャーヒリーヤ時代の最大で最も有名な年中行事でした。巡礼の季節の直前、ズル・カアダ月に 21 日間開かれました。売り買いのほか、アラブの部族はそこで争いを解決し、盟約を結び、競走をし、詩を競い合いました。この市場はイスラームの到来後に衰え、ついにヒジュラ暦 127 年に破壊されました。今日、ターイフ近くのその史跡には現代の市場が再建され、毎年の文化祭として開かれています。

出典：Wikipedia, “Souk Okaz”。

歴史の注：フバーシャの市場の跡地

2023 年、アブドルアズィーズ国王財団（ダーラ）とサウジアラビア遺産委員会と協力する研究チームが、マッカ地方のワーディー・カヌーナ南岸にあった古代アラブの市場**フバーシャの市場**の跡地の発見を発表しました。この市場は毎年ラジャブ月の初めから 8 日間開かれていたと言われます。

一部のスィーラ書は、かれがハディージャの商品をこの市場に運んだことがあると述べています。この伝承は『サヒーフ・ブハーリー』『サヒーフ・ムスリム』には見られず、跡地発見の報告自体もかれとの関わりには触れていません。そのため、ここでは確かな事実ではなく、歴史的な情報として紹介しています。

出典：The Media Line, “Ancient Souq Habasha Discovered in Mecca Region” (2023)。

教訓

アラブの市場は売り買いの場であるだけでなく、知らせや言葉や文化が行き交う場所でもありました。かれはこの交易の世界の真ん中で育ちながら、そのごまかしや不正に流されることはありませんでした。私たちも同じです。社会の中で働き、商いをしながら、誠実さと信頼を守るのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

歴史の足跡：クルアーン以前のアラビア文字

クルアーンは「明瞭なアラビア語で」下されました。それ以前のアラビア文字はどのようなものだったのでしょうか。シャームで発見されたいくつかの碑文は、啓示が下る前の3世紀の間にアラビア文字がどのように発達したかを示しています。この章では、確かな発見だけを出典とともに紹介します。

碑文	年代	説明
ナマーラ	西暦328年	シリア南部にある、ラフム族のアラブ王イムルル・カイス・ブン・アムルの墓碑。アラビア文字へと変わりつつあるナバテア文字で書かれた古いアラビア語。現在パリのルーヴル美術館所蔵。
ザバド	西暦512年	シリア北部の教会の入口にある。ギリシア語、シリア語、アラビア語で書かれている。現在ブリュッセルの王立美術歴史博物館所蔵。
ハッラーン（ハウラーン）	西暦567〜568年	ダマスカス南方のスワイダー近くの教会にある。ギリシア語とアラビア語。アラビア語の部分は建設の年を「ハイバルの出来事の1年後」と記している。

出典：Wikipedia, “Namara inscription”；Wikipedia, “Zabad inscription”；Wikipedia, “Harran inscription”。

ハッラーンの碑文は、かれの誕生のわずか数年前に、クライシュの隊商の目的地ブスラーと同じハウラーン地方で書かれました。これは、当時のアラブ人の多くが読み書きできなかったものの、かれの少年時代には交易路に沿ってアラビア文字がすでに使われていたことを示しています。アッラーの使徒 ﷺ ご自身は、クルアーンにあるように**ウンミー**（読み書きをしない人）でした（Surah Al-A‘raf 7:157）。

ヒマー：ナジュラーンの隊商の休息地

サウジアラビア南部のナジュラーンには、**2021年にユネスコ世界遺産に登録された**ヒマー地域があります。アラビア半島の古代の隊商路の一つにあり、狩りや動物や

暮らしを描いた何千もの岩絵や彫刻、そして旅人や兵士が残した文字があります。少なくとも 3000 年前のものと推定されるビイル・ヒマーの井戸は、今も水を湧き出しています。

出典：Pertubuhan Bangsa-bangsa Bersatu (Arab Saudi), “Ḥimā Cultural Area in Najran added to UNESCO’s World Heritage List” (2021)。

教訓

アッラーは何世紀もかけて、墓碑に刻まれた素朴な文字から、アラビア語をご自身の最後の啓典の器へと整えられました。しかし、それを伝えた使徒はウンミーでした。クルアーンが人間の作ったものではないことが明らかになるためです。たとえ少しでもアラビア語を学ぶことは、クルアーンにより近づく道です。

このシリーズの人物

次の表は、アッラーの使徒 ﷺ の青年期と壮年期の物語に登場する人物をまとめたものです。一人ひとりの位置づけを覚えやすくするためです。

人物	アッラーの使徒 ﷺ	備考
アブー・ターリブ	おじ	8歳からかれを養い、シャームへ連れて行った。
アル＝アッバース・ブン・アブドルムッタリブ	おじ	カアバ再建のときにかれとともに石を運んだ（『サヒーフ・ブハーリー』3829）。アブー・ターリブの負担を軽くするためにジャアファルを引き取った。
ハディージャ・ビント・フワイリド	最初の妻	アサド家の商人。イブラーヒームを除くかれの子どもたちの母。最初に信仰した人。
マイサラ	ハディージャの使用人	シャームへの交易の旅でかれに同行した（スィーラ書）。
ナフィーサ	ハディージャの友人	スィーラ書によれば、ハディージャの求婚の仲立ち。
ハキーム・ブン・ヒザーム	ハディージャの甥	おばのためにウカーズの市場でザイドを買った。
ザイド・ブン・ハーリサ	養子	かれのもとにとどまることを選んだ。クルアーンに名前が記された唯一の教友（33:37）。
アリー・ブン・アビー・ターリブ	いとこ	かれとハディージャの家で育った。
ジャアファル・ブン・アビー・ターリブ	いとこ	干ばつの年にアル＝アッバースに引き取られた。
アブドゥッラー・ブン・ジュドアーン	タイム家の長	彼の家でヒルフ・アル＝フドゥールが結ばれた。

人物	アッラーの使徒 ﷺ	備考
アル＝アース・ブン・ワーイル	クライシュの指導者	ザビードの商人に代金を払わず、ヒルフ・アル＝フドゥールのきっかけとなった。
ザイド・ブン・アムル・ブン・ヌファイル	ハニーフ	偶像を拒んだ。預言者の時代の前に亡くなった（『サヒーフ・ブハーリー』3826）。
バークーム	大工	難破したローマの船にいたコプト人の職人。カアバの建設を手伝った（歴史書）。
バヒーラ	ブスラーの修道士	その話はスィーラ書にある。内容の一部は学者が疑問視している。

出典：イブン・ヒシャーム『預言者伝』；『サヒーフ・ブハーリー』3826、3829；本書の前の各章。

教訓

このシリーズの人物はさまざまな背景を持っています。貧しいおじ、裕福な妻、市場で売られた少年、部族の長、外国から来た大工。彼らは皆、かれの人柄を目にしました。毎日、私たちの周りの人々も私たちの人柄を目にしています。彼らこそ最も正直な証人なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

年表：スィーラと世界

この年表は、本書のスィーラの出来事を、同じ時代の世界の出来事と並べて示しています。スィーラの出来事の西暦年は、現代の歴史家による推定です。

年（推定）	出来事
567〜568	ハウラーンのハッラーンにアラビア語・ギリシア語の碑文。
578 年ごろ	アブドルムッタリブが死去。かれはアブー・ターリブに引き取られる。
582 年ごろ	アブー・ターリブとともに初めてシャームへ旅する（スィーラ書）。
580 年代末	ウカーズとターイフ周辺でフィジャールの戦い。
590	ホスロー2 世がペルシア王となる。マッカでヒルフ・アル＝フドゥールが結ばれる。
595 年ごろ	ハディージャの商品をシャームへ運ぶ。ハディージャと結婚。
602	マウリキウスがフォカスに殺され、ローマ・ペルシア戦争が再開。ペルシアがラフム朝を廃止。
600〜605 年ごろ	クライシュ族がカアバを再建。かれが黒石を置く。
604〜611	ズー・カールの戦い：バクル族がペルシア軍を破る。
610 年の直前	真実の夢。ヒラーの洞窟での独居（『サヒーフ・ブハーリー』3）。
610	ヘラクレイオスがローマ皇帝となる。ヒラーの洞窟に最初の啓示が下る。

出典：World History Encyclopedia, “Khosrow II”；Wikipedia, “Battle of Dhu Qar”；Wikipedia, “Harran inscription”；本書の前の各章の年表。

教訓

ヘラクレイオスがローマの帝位に就いたのと同じ年、財産を持たない一人の男が小さな洞窟で啓示を受けました。世界はその皇帝の名を記録しましたが、のちの歴史

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

は、ヒラーの洞窟での出来事のほうがはるかに大きな影響を持ったことを証明しました。アッラーのもとでの成功の基準は、人間の基準とは異なるのです。

よくある質問

アッラーの使徒 ﷺ の青年期と壮年期についてよく尋ねられる質問と、本書で取り上げた資料に基づく簡単な答えです。

1. かれは預言者となる前に何回シャームへ行ったのですか。

スィーラ書によれば、少なくとも 2 回です。少年のときにアブー・ターリブとともに、そして 20 代前半にマイサラとともにハディージャの商品を運んだときです。

2. 修道士バヒーラの話は真正ですか。

この話はイブン・イスハークとアッ＝ティルミズィーが伝えていますが、内容の一部はアッ＝ザハビーらの学者が疑問視しています。確かなのは、かれが隊商とともにシャームへ行ったことがあるということです。「修道士バヒーラの話：一つの評価」の章を参照してください。

3. かれはフィジャールの戦いで戦ったのですか。

諸資料によれば、かれはおじたちとともにその場にいて、敵の矢からおじたちを守りましたが、自ら戦うことはありませんでした。そのときの年齢ははっきりせず、資料は 14 歳から 20 歳の間としています。

4. ヒルフ・アル＝フドゥールは多神教徒が結んだものなのに、なぜ称賛されるのですか。

その目的が虐げられた者を守ることであり、イスラームと一致する価値だからです。スィーラ書は、イスラームの中でもそのような盟約に招かれたなら、かれは応じただろうと伝えています。この伝承は『サヒーフ』二書には見られません。

5. かれと結婚したとき、ハディージャは何歳だったのですか。

有名な説では 40 歳ですが、一部の資料は約 28 歳としています。確かなのは、その結婚が人柄の上に築かれ、約 25 年続いたということです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

6. かれとハディージャの子どもは何人ですか。

6 人です。アル＝カースィムとアブドッラー（幼くして死去）、そしてザイナブ、ルカイヤ、ウンム・クルスーム、ファーティマです。イブラーヒームはのちにマディーナで、マーリヤ・アル＝キブティーヤから生まれました。

7. なぜザイドはザイド・ブン・ムハンマドと呼ばれなくなったのですか。

アッラーが部族連合章 33:5 を下し、養子は実の父の名で呼ぶよう命じられたからです。それ以来、彼は再びザイド・ブン・ハーリサと呼ばれるようになりました。

8. なぜヒジュル・イスマーイールはカアバの建物の外にあるのですか。

かれがアーイシャ رضى الله عنها に語られたように（『サヒーフ・ブハーリー』1584）、クライシュ族がカアバを再建したとき、ハラールな費用が足りなかったからです。そのため、タワーフのときにはヒジュルの外側を歩きます。

9. かれは預言者となる前に偶像を崇拝したのですか。

いいえ。アッラーはかれを民の多神崇拝から守られました。クルアーンは、啓示の前の 40 年間のかれの生涯を、その誠実さの論証としています（ユーヌス章 10:16）。

10. ハニーフとはどのような人々ですか。

偶像崇拝を拒み、預言者イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ の宗教を求めた、ごく一部のアラブ人です。ザイド・ブン・アムル・ブン・ヌファイル（『サヒーフ・ブハーリー』3826）がその一人です。彼らは、人間のフィトラが唯一の神を求めることを示しています。

11. ヒラーの洞窟での礼拝には特別な功徳がありますか。

ヒラーの洞窟の中で礼拝したり祈ったりすることに特別な功徳があるとする典拠はなく、そこに登ることはハッジやウムラの儀礼の一部でもありません。啓示の始まりについて教訓を得るために訪れることはできます。

12. かれはヒラーの洞窟で何をしておられたのですか。

『サヒーフ・ブハーリー』3 によれば、かれはその洞窟で何夜かタハンヌス、すなわち礼拝を行い、食料を持って行っては、ハディージャのもとへ戻ってまた食料を持って行かれました。その礼拝の方法の詳細は、真正な伝承には説明されていません。

教訓

問うことは知識の鍵です。アッラーの使徒 ﷺ についての話を聞いたら、「その出典は何か、それは真正か」と問う習慣をつけましょう。そうすることで、かれへの私たちの愛は真実の上に築かれるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

本書からの教訓

第一：預言者となる前の生涯は論証である。 かれは嘘をつくことなく 40 年間民の中で暮らされました（10:16）。

第二：苦労が人格を形づくる。 貧しい孤児の少年は、誠実な若者へと成長しました。

第三：虐げられた者を守る。 ヒルフ・アル＝フドゥールは、預言者となった後もかれに認められました。

第四：誠実さは元手である。 正直さがハディージャの信頼と「アル＝アミーン」の呼び名をもたらしました（『サヒーフ・ブハーリー』4770）。

第五：伴侶への誠実な愛。 かれは生涯ハディージャを偲ばれました（『サヒーフ・ブハーリー』3818）。

第六：アッラーは使徒を守られる。 カアバ建設のとき、かれのアウラは守られました（『サヒーフ・ブハーリー』3829）。

第七：ハラールな財産のみ。 クライシュ族はハラールな資金が足りず、ヒジュルを外に残しました（『サヒーフ・ブハーリー』1584）。

第八：一つにまとめるリーダーシップ。 黒石の問題の解決は、すべての氏族を参加させました。

第九：偉大な人格。 かれの人格はクルアーンそのものでした（68:4）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

年表のまとめ

年齢（推定）	出来事と典拠
8	アブー・ターリブに引き取られる（イブン・カスィール 93:6）
12 ごろ	アブー・ターリブとともにシャームへ（スィーラ書）
14〜20	フィジャールの戦い（歴史書）
20 ごろ	ヒルフ・アル＝フドゥール、西暦 590 年（歴史書）
20 代前半	ハディージャの商品をシャームへ運ぶ（スィーラ書）
25 ごろ	ハディージャと結婚、西暦 595 年ごろ（スィーラ書）
35 ごろ	カアバの再建（『サヒーフ・ブハーリー』 3829）
40 の直前	真実の夢とヒラーの洞窟での独居（『サヒーフ・ブハーリー』 3）
40	最初の啓示、西暦 610 年ごろ

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版

結び

アブー・ターリブの狭い家から、シャームの市場へ、アブドッラー・ブン・ジュドアーンの家へ、ハディージャとの家庭へ、そしてジャバル・アン＝ヌールの頂へ。アッラーは 40 年をかけて使徒を準備されました。かれが 40 歳になったとき、静かなヒラーの洞窟で最初の啓示が下りました。イン・シャー・アッラー、『**預言者伝（スィーラ）**』シリーズは、**啓示の始まり**とマッカでの秘密の宣教へと続きます。ワッラーフ・アアラム（アッラーが最もよくご存知です）。

参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版の本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの解釈』（10:16；68:4）。https://tafsir.app/ibn-katheer/68/4

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』3、1584、3818、3820、3826〜3827、3829、4770。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』2277。https://sunnah.com/muslim:2277

スィーラと歴史の書

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークからの伝承）– 青年期、ハディージャとの結婚、カアバの建設の章。

Wikipedia「Abu Talib ibn Abd al-Muttalib」。https://en.wikipedia.org/wiki/Abu_Talib_ibn_Abd_al-Muttalib

Wikipedia「Bosra」。https://en.wikipedia.org/wiki/Bosra

Wikipedia「Bahira」。https://en.wikipedia.org/wiki/Bahira

Wikipedia「Fijar Wars」。https://en.wikipedia.org/wiki/Fijar_Wars

Wikipedia「Hilf al-Fudul」。https://en.wikipedia.org/wiki/Hilf_al-Fudul

Wikipedia「Khadija bint Khuwaylid」。https://en.wikipedia.org/wiki/Khadija_bint_Khuwaylid

Wikipedia「Zayd ibn Haritha al-Kalbi」。https://en.wikipedia.org/wiki/Zayd_ibn_Haritha_al-Kalbi

Wikipedia「Kaaba」。https://en.wikipedia.org/wiki/Kaaba

Wikipedia「Mount Hira」。https://en.wikipedia.org/wiki/Mount_Hira

Wikipedia「Quraysh」。https://en.wikipedia.org/wiki/Quraysh

世界史と考古学

World History Encyclopedia「Khosrow II」。https://www.worldhistory.org/Khosrow_II/

Wikipedia「Battle of Dhu Qar」。https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_Dhu_Qar

Wikipedia「Souk Okaz」。https://en.wikipedia.org/wiki/Souk_Okaz

The Media Line「Ancient Souq Habasha Discovered in Mecca Region」（2023 年）。https://themedialine.org/mideast-daily-news/ancient-souq-habasha-discovered-in-mecca-region-of-saudi-arabia/

Wikipedia「Namara inscription」。https://en.wikipedia.org/wiki/Namara_inscription

Wikipedia「Zabad inscription」。https://en.wikipedia.org/wiki/Zabad_inscription

Wikipedia「Harran inscription」。https://en.wikipedia.org/wiki/Harran_inscription

国連サウジアラビア事務所「Ḥimā Cultural Area in Najran added to UNESCO's World Heritage List」（2021 年）。https://saudiarabia.un.org/en/137365-%E1%B8%A5im%C4%81-cultural-area-najran-added-unesco%E2%80%99s-world-heritage-list

支援と寄付

この電子書籍はムスリムのために**完全に無料**で発行されており、**決して販売してはなりません**。研究費、ウェブサイト quranscience.my の運営費、そして次の電子書籍の発行のためのご寄付を心から歓迎します – ただし、**義務ではありません**。アッラーがすべてのご寄付を継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）としてお受け入れくださいますように。

雌牛章 2:261

مَّثَلُ ٱلَّذِينَ يُنفِقُونَ أَمۡوَٰلَهُمۡ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ كَمَثَلِ حَبَّةٍ أَنۢبَتَتۡ سَبۡعَ سَنَابِلَ فِي كُلِّ سُنۢبُلَةٖ مِّاْئَةُ حَبَّةٖۗ وَٱللَّهُ يُضَٰعِفُ لِمَن يَشَآءُۚ وَٱللَّهُ وَٰسِعٌ عَلِيمٌ ٢٦١

アッラーの道のために自分の所有するものを施す者を例えてみれば、ちょうど 1 粒が 7 穂を付け、1 穂に百粒を付けるのと同じである。アッラーは御心に適う者に、倍加してくださる。アッラーは厚施にして全知であられる。

訳：三田了一 — quran.com/2:261

サバア章 34:39

قُلۡ إِنَّ رَبِّي يَبۡسُطُ ٱلرِّزۡقَ لِمَن يَشَآءُ مِنۡ عِبَادِهِۦ وَيَقۡدِرُ لَهُۥۚ وَمَآ أَنفَقۡتُم مِّن شَيۡءٖ فَهُوَ يُخۡلِفُهُۥۖ وَهُوَ خَيۡرُ ٱلرَّٰزِقِينَ ٣٩

言ってやるがいい。『本当にわたしの主は、そのしもべの中から御心に適う者に、御恵みを豊かに与えまた或る者には乏しく授けられる。かれはあなたがたが（主の道のために）施すものはすべて返される。かれは最も優れた御恵を与える方であられる。』

訳：三田了一 — quran.com/34:39

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 2588 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، وَابْنُ، حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - وَهُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، عَنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « مَا نَقَصَتْ صَدَقَةٌ مِنْ مَالٍ وَمَا زَادَ اللَّهُ عَبْدًا بِعَفْوٍ إِلاَّ عِزًّا وَمَا تَوَاضَعَ أَحَدٌ لِلَّهِ إِلاَّ رَفَعَهُ اللَّهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「施しは財産を減らさない。人を赦すしもべに、アッラーは尊厳しか増し加えない。アッラーのためにへりくだる者を、アッラーは必ず高められる。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← アル＝アラー・ブン・アブドゥッラフマーン ← 父 アブドゥッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』善行・親族の絆・作法の書、赦しと謙虚さを勧めることの章、ハディース第 2588 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:2588

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 1631 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، - يَعْنِي ابْنَ سَعِيدٍ - وَابْنُ حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - هُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « إِذَا مَاتَ الإِنْسَانُ انْقَطَعَ عَنْهُ عَمَلُهُ إِلاَّ مِنْ ثَلاَثَةٍ إِلاَّ مِنْ صَدَقَةٍ جَارِيَةٍ أَوْ عِلْمٍ يُنْتَفَعُ بِهِ أَوْ وَلَدٍ صَالِحٍ يَدْعُو لَهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「人が死ぬと、その行いは三つを除いて途絶える。継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）、役に立つ知識、またはその人のために祈る正しい子どもである。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← ア

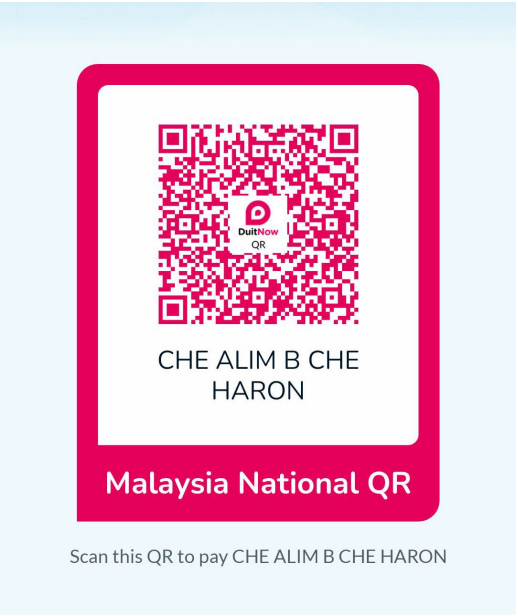
ル＝アラー・ブン・アブドゥッラフマーン ← 父 アブドゥッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』遺言の書、死後に人に届く報奨の章、ハディース第 1631 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1631

ジャザークムッラーフ・ハイラン・カスィーラ（多大なる善い報いがありますように）



上の QR コード（DuitNow）を読み取って寄付できます。



海外からのご寄付：寄付するボタンをクリックするか、こちらへ paypal.me/quranscience